

# 教えて! ドクター 加齢による 眼病(老視)

老視と白内障は、目の老化現象。

40歳代で辞書や携帯のメールなど近くの細かい字が見えにくくなるのが老視の始まり

45歳過ぎる頃になると、本や新聞などの近くが見えにくくなります。特に、暗い所や一日の終わり頃になると強く感じます。

原因は老視です。目はよくカメラに例えられます。目の中にある水晶体は、カメラではレンズに相当し、遠くと近くをすばやくピントを合わせることができます。老視ではレンズに相当し、遠くと近くをすばやくピントを合わせることができるオートフォーカス機能の役目をします。近くを見る時は、水晶体が厚くなり、遠くを見る時は、水晶体が薄くなりピントを合わせます。

老視は、45歳頃になると水晶体を調節する筋力(毛様体筋)の低下と水晶体の硬化により弾力性が低下し、水晶体が厚くならなくなる為、近くが見えにくくなります。

すべての人が、  
加齢と共に老視は発症する

原因は加齢によるものなので、老視は

だれでも必ず同じ年齢ぐらいで発症します。近視の人は、その頃メガネを外すと近くが見え、一見老視が無いように思えますが、遠方に合ったメガネで近くが見えなくなることが老視なのです。近視、遠視、乱視(屈折異常)を矯正できっていても、調節力の低下によって、近見視力が低下する、いわゆる老視は調節異常として区別されます。水晶体の調節力は、加齢と共に徐々に低下し、70歳頃まで進むと言われています。よって老眼としては、4~5年でレンズの度が強くなるため、一生涯のうちに5~6回程、老眼のレンズを換えることになります。

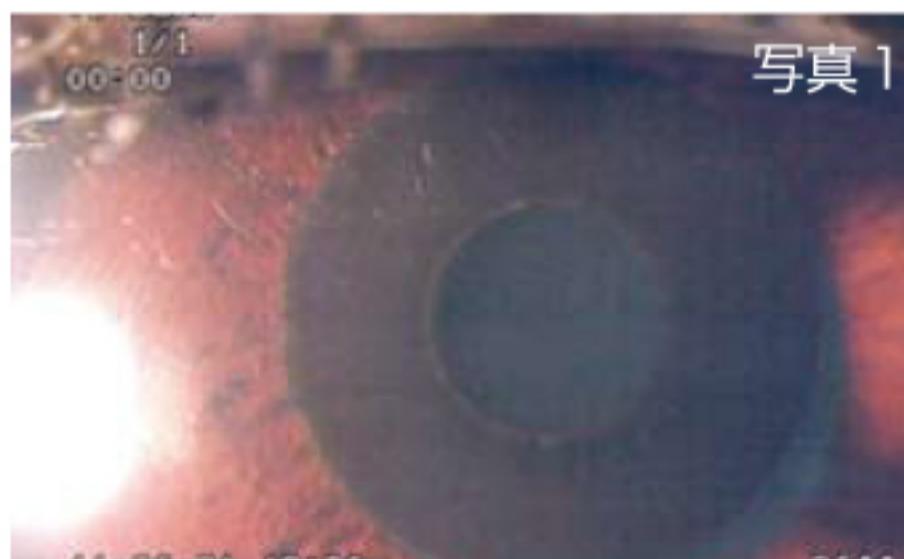
## 老眼治療の種類

治療は、眼鏡では、一重焦点レンズか累進加入レンズか近用眼鏡をかけ

ることです。コンタクトは、遠方を少し弱めにするか、一眼を遠見、僚眼を近見に矯正してモノビジョン(単眼視)にするか、一重焦点レンズにします。さらにモノビジョンを目的としてレーシックなどの屈折矯正手術や多焦点眼内レンズによる水晶体手術などがあります。

最新の治療としてアキューフォーカスリングを片眼に入れる方法があります。特殊なレンズを角膜実質に挿入し、ピンホール効果として

当初は、見えが悪いと老眼鏡を嫌いすることがあります。しかし、老眼鏡をかけて肩こり、頭痛や眼精疲労が出現すると、かえり生活を持続することがあります。が見えにくいことがあります。



アキューフォーカスリング…左は老視の手術治療眼(写真1)。真ん中に直径1.6ミリの穴があいている黒いリングを角膜に埋め込む手術。右は無治療眼(写真2)。



医学博士 川久保 洋 先生  
1959年生まれ。川久保眼科院長  
さいたま市立病院眼科医長  
駿河台日大病院眼科外来医長を  
経て、現在に至る。  
現在、駿河台日大病院眼科兼任講師  
日本眼科学会専門医。

## ■老視の始まりをチェック

- 新聞や本を  
前より離して見るようになった。
- 近視眼鏡を外した方が、  
近くが見えるようになった。
- 昔の弱い近視眼鏡で、  
近くは見やすくなった。
- 目を凝視して近くを見るようになつた(遠視の人)。
- 近くを見た後に、  
遠くがぼやけるようになった。
- 長時間近業をすると  
頭痛、肩こり、眼精疲労が  
起こるようになった。

# 川久保眼科

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー(角膜矯正療法)、  
コンタクトレンズの処方



※JR京浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

■診療時間 午前 9:00~12:00 午後 14:00~18:00  
■休診日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

## 川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F  
TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp